

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 西部災害時多言語支援センターWESTERN

1. 事業名称

多文化共生社会における災害時のための防災日本語教育支援事業

2. 事業の目的

大きな被害が想定される東海地震発生区域に位置する浜松市。そこに生活をしている外国・情報収集力に乏しく、災害弱者として見られてしまう。しかし、災害時において外国人が正しい情報を得て日本人との意思疎通が図れると、逆に支援活動を行う立場にすることが可能となる。少子高齢化社会の日本において高齢者が集住する団地に同じように居住する外国人の存在は大きい。災害が起きてからではなく、その前から必要な日本語能力と防災知識の取得をし、また、日本人との住民同士の繋がる機会を提供し、「顔の見える関係」の構築を目指す。

3. 事業内容の概要

阪神・淡路大震災、新潟中越沖地震や東北大震災などの大震災での外国人に対する情報活動を踏まえ、災害時に外国人に必要な日本語と防災知識などを得られるような教室を行う。まずは市内3地区をモデル地区として開催し、その後は浜松市や磐田市、湖西市など静岡県西部地域へ展開する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】 委員

氏名	所属・役職
山下 文彦	浜松市国際課長
井口 正孝	防災士、市民ボランティア
土井 佳彦	NPO 法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事
時光	NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会 事務局長
堀 永乃	一社団法人グローバル人財サポート浜松 代表理事
中島 イルマ	浜松市外国人共生審議会 委員 西部災害時多言語支援センター Western 役員
山城 ロベルト	浜松市外国人共生審議会 委員 西部災害時多言語支援センター Western 代表

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年9月27日 16:00~17:30	1時間30分	グローバル人財サポート浜松研修室	山城ロベルト、山下文彦、井口正孝、堀永乃、土井佳彦、時光、中島イルマ	1 運営委員自己紹介 2 防災日本語教育事業の説明(総合) 3 取組1について 4 取組2について 5 取組3について 6 意見交換	協議「防災日本語教育事業の説明」 取組1 災害時のための防災日本語教室の実施と企画運営について 取組2 『災害時』多言語支援人材育成のための日本語講座の実施と企画運営について 取組3 『防災』から考える多文化シンポジウムの企画について
2	平成24年12月21日 10:30~12:00	1時間30分	グローバル人財サポート浜松研修室	山城ロベルト、山下文彦、堀永乃、土井佳彦、中島イルマ	1 協議「防災日本語教育事業の状況」 2 取組1について 3 取組2について 4 取組3について 5 意見情報交換	協議「防災日本語教育事業の状況」 取組1 災害時のための防災日本語教室について 取組2 『災害時』多言語支援人材育成のための日本語講座の報告 取組3 『防災』から考える多文化シンポジウム ~浜松から~について
3	平成24年2月4日 13:30~15:00	1時間31分	グローバル人財サポート浜松研修室	山城ロベルト、山下文彦、堀永乃、土井佳彦	1 協議「防災日本語教育事業の状況」 2 取組1について 3 取組3について 4 意見情報交換	協議「防災日本語教育事業の状況」 取組1 災害時のための防災日本語教室について 取組3 『防災』から考える多文化シンポジウム ~浜松から~について
4	平成24年3月6日 16:00~17:00	1時間	グローバル人財サポート浜松研修室	山城ロベルト、山下文彦、堀永乃、中島イルマ	1 協議「防災日本語教育事業の状況」 2 取組1について 3 取組3について 4 意見情報交換	協議「防災日本語教育事業の状況」 取組1 災害時のための防災日本語教室の報告 取組3 『防災』から考える多文化シンポジウム ~浜松から~の報告

【写真】



5. 取組についての報告

○取組1:災害時のための防災日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

災害時に必要な日本語と防災に関する知識の取得。また、実際に災害が発生した時に情報をただ受け取るのではなく自発的に情報を取得できるようにすることを目標とする。

(2) 取組内容

教室名:① 青少年のため災害時の防災日本語教室

回	内容
1	・非常持出袋日本語会話 ・災害映像鑑賞 ・連絡先リスト作成
2	・非常持出袋日本語会話 ・防災時会話集
3	・非常持出袋日本語会話 ・119・110・171 のワークショップ ・非常持出袋ワークショップ ・AED の使用方法の説明
4	・普段から気を付けておくこと ・CPR と AED 講習
5	・地震避難時の注意事項 ・AED/CPR のワークショップ

教室名:② 外国人研修生のための防災日本語教室

回	内容
1	・静岡県の「やさしい日本語」版地震防災パンフレットを読み、理解する(地震避難時の注意事項、地震のときの日本語) ・避難所会話集の作成
2	・避難所での実践会話
3	・避難所での実践会話
4	・ニュースから正しい情報を得る ・ルールを説明するための日本語
5	・寮から自宅までのハザードマップづくり

教室名:③ 災害時に日本語を母国語としない市民と接するための日本語講座

回	内容
1	・多文化共生について ～多文化を活かそう～
2	・災害時のやさしい日本語 ～伝わりやすいコミュニケーション～
3	・避難所で生活する時の注意事項

4	・AED/CPR と応急処置のワークショップ
5	・災害時の体と心のケアについて

(3) 対象者

- ① 外国人市民(青少年)
- ② 日本人市民又は外国人研修生
- ③ 日本人市民又は外国人市民

(4) 参加者の募集方法

1. ニュースレター記載:(公財)浜松国際交流協会、(公財)静岡県国際交流協会
2. メーリングリスト:(公財)浜松国際交流協会、浜松市市民協働センター
3. チラシ配布:浜松市内公民館、浜松市内図書館、近隣国際交流協会、市民活動団体 約 350 団体
4. WEB 記載:当団体のホームページ、浜松市市民協働センター Blog、(公財)静岡県国際交流協会



(5) 参加者の総数 59 人

- ① 17 人(出身・国籍別内訳 ブラジル 17 人)
- ② 17 人(出身・国籍別内訳 タイ 4 人、ベトナム 5 人、8

人)

- ③ 25 人(出身・国籍別内訳 日本 20 人、ブラジル 3 人、2 人)

(6) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 15 回)

- ① 5 回・10 時間
- ② 5 回・10 時間
- ③ 5 回・10 時間

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成24年10月30日 13:00~15:00	2時間	EAS学校 講座室	12人	ブラジル(12人)	災害について-1-1	非常持出袋日本語会話-1、災害映像鑑賞、連絡先リスト作成	1名	鈴木 規之	1名	野口 功	
2	平成24年11月1日 13:00~15:00	2時間	EAS学校 講座室	11人	ブラジル(11人)	災害について-1-2	非常持出袋日本語会話-2、防災時会話集	1名	鈴木 規之	2名	野口 功 中島 イルマ	
3	平成24年11月2日 13:00~15:00	2時間	EAS学校 講座室	13人	ブラジル(13人)	災害について-1-3	非常持出袋日本語会話-3、非常持出袋のワークショップ、119・110・171のワークショップ、AEDの使用方法	1名	鈴木 規之	1名	野口 功	
4	平成24年11月6日 13:00~15:00	2時間	EAS学校 講座室	14人	ブラジル(14人)	災害について-1-4	普段から気をつけておくこと、CPR/AEDの講習	1名	井口 正孝	2名	野口 功 中島 イルマ	
5	平成24年11月8日 13:00~15:00	2時間	EAS学校 講座室	13人	ブラジル(13人)	災害について-1-5	地震避難時の注意事項、AED/CPRのワークショップ	1名	井口 正孝	2名	野口 功 中島 イルマ	
6	平成24年12月10日 17:00~19:00	2時間	坂下制作所 会議室	10人	タイ(2人) ベトナム(2人) インドネシア(6人)	災害について-2-1	避難所会話集の作成	1名	堀 永乃	1名	野口 功	
7	平成24年12月26日 17:00~19:00	2時間	坂下制作所 会議室	12人	タイ(2人) ベトナム(3人) インドネシア(7人)	災害について-2-2	避難所での実践会話	1名	堀 永乃	1名	野口 功	
8	平成25年1月21日 17:00~19:00	2時間	坂下制作所 会議室	12人	タイ(2人) ベトナム(3人) インドネシア(7人)	災害について-2-3	静岡県の「やさしい日本語」版 地震防災パンフレットを読み、理解する	1名	堀 永乃	1名	野口 功	静岡県の「やさしい日本語」版
9	平成25年1月28日 17:00~19:00	2時間	坂下制作所 会議室	11人	タイ(2人) ベトナム(3人) インドネシア(6人)	災害について-2-4	ニュースから情報を得るための日本語	1名	堀 永乃	1名	野口 功	
10	平成25年2月4日 17:00~19:00	2時間	坂下制作所 会議室	10人	タイ(2人) ベトナム(2人) インドネシア(6人)	災害について-2-5	寮から自宅までのハザードマップ作り	1名	堀 永乃	1名	野口 功	
11	平成25年1月31日 19:00~21:00	2時間	浜松市中部 公民館	14人	日本(11人) ブラジル(2人) ペルー(1人)	災害について-3-1	多文化共生について~多文化を活かそう~	1名	堀 永乃	1名	野口 功	
12	平成25年2月7日 19:00~21:00	2時間	浜松市中部 公民館	16人	日本(14人) ブラジル(1人) ペルー(1人)	災害について-3-2	災害時のやさしい日本語	1名	堀 永乃	1名	野口 功	
13	平成25年2月14日 19:00~21:00	2時間	浜松市中部 公民館	11人	日本(10人) ブラジル(1人)	災害について-3-3	避難所で生活する時の注意事項	1名	井口 正孝	1名	野口 功	
14	平成25年2月21日 19:00~21:00	2時間	浜松市中部 公民館	10人	日本(8人) ペルー(2人)	災害について-3-4	AED/CPRと応急処置法	1名	野口 功			
15	平成25年2月28日 19:00~21:00	2時間	浜松市中部 公民館	10人	日本(9人) ブラジル(1人)	災害について-3-5	災害時の体と心のケアについて	1名	牧野 典子	1名	野口 功	

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

① 青少年のため災害時の防災日本語教室

青少年に災害時によく使用される言葉を日本語で正しく覚えると共にその内容をきちんと理解してもらった。



② 外国人研修生のための防災日本語教室

企業に勤める外国人研修生において災害時において自身の役割や地域とどのように関わっていくか、また日本人と接するための日本語などを多方面から覚えてもらった



③ 災害時に日本語を母国語としない市民と接するための日本語講座

外国人市民だけではなく日本人市民も日本語を母語としない市民と接するためにはどうすべきなのか、どのような日本語を使えば相手に伝わりやすいのかを覚えてもらった



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ① 青少年にとって災害や地震というものに対する意識がとても薄いため自身の住所や親の名前、血液型などを日本語で話すことが出来なかった。今回の講義を経て、災害だけではなく色々な局面において活用できる日本語を覚える機会を提供できた。
- ② 実際に企業の中で働いている労働者であるため日本語に接する機会が多かったが基本のコミュニケーション能力はあったが災害という局面においては日本の中からのどのように情報を収集すればよいのか、また自身の文化や食習慣をどのような日本語で伝えればよいのかを覚える機会を提供できた。
- ③ 1回目から3回目までは、多文化とはどういうものなのか？また多文化間の中でコミュニケーションをとるにはどうすべきなのかをメインに講座を行った。4回目と5回目については主に災害時にどのような事が起こり得るのかなどを具体例に出して講義を行った。多文化とはどういうもののかなど色々な側面から見きかけを提供できた。

(10) 改善点について

全体を通してみえた問題として外国人市民は災害においては危機感がそこまでなくテレビなどで緊急地震速報が流れても日本語であるためにあまり意味が理解されていなかった。外国人市民が自身でいつでも情報をキャッチできるように速報や情報を日本語で流すのではなく、やさしい日本語で情報発信を行うべきであると考え。また日本語を母語としない市民もただ受け身となって情報を提供されるまで待つのではなくどのように情報をキャッチしていくべきなのかを考え動ける環境を作るべきである

○取組2:『災害時』多言語支援人材育成のための日本語講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

避難所における多文化コミュニティ形成に向けた災害時多言語支援者のための日本語教室

(2) 取組内容

回数	内容
1	・消防署見学 ・ハザードマップの作成について ・普段から気を付けておくこと ハザードマップを作成するときどのような事を注意すればよいか。平日頃から色々な関係を作って仲間を増やしていければ災害時に大きな力となる。
2	・心肺蘇生法と応急処置法について ・AEDの正しい使い方(大人用・子ども用) 応急処置の方法やそれに伴う法律についての講義とワークショップ。
3	・ハザードマップの作成、地震避難時の注意事項 勉強したハザードマップの実践的なやりかた。避難時の危険個所の見方

	や、調べ方。
4	・袋非常食と非常持出しについて なぜ必要なのか？どれぐらい持てばいいのか？等の詳しい内容
5	・避難所運営ゲーム HUG トレーニング

(3) 対象者

多言語支援、防災活動に関心のある市民

(4) 参加者の募集方法

1. ニュースレター記載：(公財)浜松国際交流協会、(公財)静岡県国際交流協会
2. メーリングリスト：(公財)浜松国際交流協会、浜松市市民協働センター
3. チラシ配布：浜松市内公民館、浜松市内図書館、近隣国際交流協会、市民活動団体 約 350 団体
4. WEB 記載：当団体のホームページ、浜松市市民協働センター Blog、(公財)静岡県国際交流協会



(5) 参加者の総数 24 人

(出身・国籍別内訳 日本 4 人、ブラジル 16 人、ペルー 3 人、バングラディッシュ 1 人)

(6) 開催時間数(回数) 10 時間 (全 5 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成24年11月4日 13:00~15:00	2時間	曳馬野出張所 会議室	15人	ブラジル(12人) ペルー(2人) 日本(2人)	災害について-1	消防署見学、ハザードマップ作成について、普段から気をつけておくこと	1名	井口 正孝	1名	野口 功 中岡 ヘナト	
2	平成24年11月4日 15:00~17:00	2時間	曳馬野出張所 会議室	15人	ブラジル(12人) ペルー(2人) 日本(2人)	災害について-2	心肺蘇生と応急処置法について、AEDの正しい使い方	1名	栃原 信二郎	2名	野口 功 中岡 ヘナト	
3	平成24年11月14日 13:00~15:00	2時間	曳馬野出張所 会議室	16人	ブラジル(12人) バングラディッシュ(1人) ペルー(2人) 日本(2人)	災害について-3	ハザードマップ作成ワークショップ	1名	井口 正孝	1名	野口 功 中岡 ヘナト	
4	平成24年11月14日 15:00~17:00	2時間	曳馬野出張所 会議室	16人	ブラジル(12人) バングラディッシュ(1人) ペルー(2人) 日本(2人)	災害について-4	地震避難時の注意事項、非常持出袋について	1名	井口 正孝	2名	野口 功 中岡 ヘナト	
5	平成25年1月13日 10:00~12:00	2時間	グローバル人財サポート 浜松研修室	11人	ブラジル(8人) ペルー(2人) 日本(1人)	災害について-5	避難所運営ゲーム HUG トレーニング	2名	井口 正孝 倉野 康彦			HUG

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



県西部地域にて災害が発生した時に拠点となる消防署の中で防災や災害に対する色々な講義を日本語で行った。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

災害が発生する前の心構えや実際に発生した時にどのような問題があるのか、またその時の対応方法などを覚えた。取組②においてはすべてを日本語で行い、参加者には災害発生時には被災者でとどまるのではなく外国人市民と自治会のパイプ役となれるように災害に付随した色々な専門的な日本語を覚える機会を提供できた。

(10) 改善点について

今回の内容についてはかなり専門的な部分も多く、参加者からは難しいという意見もあったがかなり踏み込んだ内容となっている。まずは優しい日本語を使用して理解力を養ってから専門的な日本語を使用していくという段取りが必要であったと考える。

○取組3:『防災』から考える多文化シンポジウム～浜松から～

(1) 体制整備に向けた取組の目標

地域と行政と連携した外国人支援者育成のための日本語教育に関するシンポジウムを開催し、講演と避難所模擬体験ワークショップを行う。

(2) 取組内容

第1部 多文化共生社会における災害時のための防災日本語教育事業報告

第2部 講演「災害時」多文化間で起きる問題とは

第3部 ワークショップ「避難所運営ゲーム(HUG)」

(3) 対象者

多言語支援、防災活動に関心のある市民

(4) 参加者の募集方法

1. ニュースレター記載:(公財)浜松国際交流協会、
(公財)静岡県国際交流協会
2. メーリングリスト:(公財)浜松国際交流協会、浜松市
市民協働センター
3. チラシ配布:浜松市内小中学校、浜松市内公民館、
浜松市内図書館、西部地区ロータリークラブ、西部地
区ライオンズクラブ、近隣国際交流協会、市民活動団
体 約 350 団体
4. WEB 記載:当団体のホームページ、浜松市
市民協働センター Blog、(公財)静岡県国際交流協会



(5) 参加者の総数 48 人

(出身・国籍別内訳 日本 40 人、ブラジル 5 人、ペルー 3 人)

(6) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 1 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成25年2月17日 13:00~13:15	15分	浜松市市民協働センター	48人	日本(40人) ブラジル(5人) ペルー(3人)	成果報告	当事業の報告	1名	野口 功			
2	平成25年2月17日 13:15~15:00	1時間 45分	浜松市市民協働センター	48人	日本(40人) ブラジル(5人) ペルー(3人)	講演会	「災害時」多文化間で起きる問題とは	1名	羽賀 友信			
3	平成25年2月17日 15:00~17:00	2時間	浜松市市民協働センター	48人	日本(40人) ブラジル(5人) ペルー(3人)	ワークショップ	避難所運営ゲーム「HUG」のワークショップ	1名	倉野 康彦			HUG

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

第1部、本事業の報告をした。第2部羽賀さんの講演については色々な感想をいただいております、いかに横のネットワークを広げていかや県内だけではなく色々な県とつながりを持たなければいけないこと、最初にどことつながるべきかなどを具体例を交えながらの講演会であった。また第3部のHUGについては災害時には起こり得るであろう具体例がいろいろな形で出てくるのでかなり臨場感のある避難所運営ゲームができた。

(10) 改善点について

今回は参加者で外国籍側の参加者が少なかった。外国人市民の危機意識を根底から底上げしていくための対策が必要である。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

大きな被害が想定される東海地震発生区域に位置する浜松市。そこに生活をしている外国人は言語能力・情報収集力に乏しく、災害弱者として見られてしまう。しかし、災害時において外国人が正しい情報を得て日本人との意思疎通が図れると、逆に支援活動を行う立場にすることが可能となる。少子高齢化社会の日本において高齢者が集住する団地に同じように居住する外国人の存在は大きい。災害が起きてからではなく、その前から必要な日本語能力と防災知識の取得をし、また、日本人との住民同士の繋がる機会を提供し、「顔の見える関係」の構築を目指す。

(2) 事業目的の達成状況

- ① 講義を経て、災害だけではなく色々な局面において活用できる日本語を覚える機会を提供できた。また地域と関わるためにはどのような日本語が必要なのかを理解してもらえた。
- ② 情報をどこから取得するかや実際の状況にあわせて講義を行ったのでかなり踏み込んだ内容を理解してもらえた。
- ③ 日本人にはとてもわかりやすい言葉であっても日本語を母語としない市民にとっては

かなり理解が難しいということを理解してもらい外国人市民と接するためにはどのような日本語を使えばいいのかを理解してもらった。

(3) 地域における事業の効果、成果

外国人市民が実際に消防署に入ることによって消防署の機能やまた災害が発生した時の中継局になることなどを学んだ。

地域住民にも講座等に参加してもらえたことにより地域住民と外国人市民がつながりを持つきっかけを提供できた。

日本国内の空港や自衛隊駐屯地、消防署や警察署などが災害が発生した時にどのような役割を果たすのかを日本語で情報提供したことにより専門的な日本語に触れる機会を提供できた。

(4) 改善点、今後の課題について

国籍により災害に対する危機意識が違うことが見えてきた。ペルー国籍の外国人市民は地震を母国で経験しており訓練も積んでいるが隣国であるブラジル国籍の外国人市民は地震をほとんど経験していないことから国籍ごとにあわせて取組が必要であると考えられる。

i 現状

南米国籍の外国人市民は地震を経験していないため防災訓練は外国人市民も一緒に参加しなければならないと日本人は考えている。

自治会と外国人市民をつなぐ人材が発掘できていない。

外国人市民は日本語が不十分であるため自治会主催の防災訓練に参加していない

ii 今後の課題

国籍別で対応を変える必要がある。又は状況に見合う政策を行わなければならない。

地域又は自治会と外国人リーダーをつなぐ橋渡し役が必要である。

自治会の海外での防災訓練の仕組みの知識が必要である

iii 今後の活動予定

・国籍別の防災、災害に関するアンケート調査の実施。

・防災について自身の意識を再確認してもらうためのワークショップを開催。

・行政や自治会とペアを組み災害や防災に関する講習会や講座を開催したりネットワークづくり。

・災害を経験している外国人市民が地域リーダーとして活躍できるためのプログラム開発